

平成27年度施策評価(案) 概要



全 5 1 施策の評価(案)状況

P1

評価	施 策 数
◎：順調	1 4 施策
○：概ね順調	3 5 施策
△：やや遅れている	2 施策
×：遅れている	0 施策

特にご意見をいただきたい施策

1 選定の考え方

以下の考え方にあうものから6施策を選定する。

- ①福岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「総合戦略」とする）の推進（関連交付金事業）に関するもの
- ②成果指標の達成状況が低いもの
- ③成果指標の設定がなく、事業の進捗をもって施策の評価を行っているもの

※前回の総合計画審議会（H27.7開催）で「特にご意見をいただきたい施策」としたものは、選定対象から除外した。

2 選定した施策

施策1－7 子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり

（①総合戦略の推進関連）

施策2－2 公民館などを活用した活動の場づくり

（②指標の達成度が低い）

施策4－4 まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり

（③成果指標の設定がない）

施策5－4 交流がビジネスを生むM I C E 拠点の形成

（①総合戦略の推進関連、②指標の達成度が低い）

施策7－1 新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり

（①総合戦略の推進関連）

施策8－3 国際的なビジネス交流の促進

（①総合戦略の推進関連）

施策1-7 子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり

施策の方向性

- ・家庭、学校、地域、企業、NPOなどと連携し、児童虐待など子どもに関するさまざまな問題に対する相談体制や地域全体での子育て支援の充実を図りすべての子どもと子育て家庭を見守り育みます。
- ・また、多様な保育サービスの充実を図るとともに、ワーク・ライフ・バランスを推進し、安心して子どもを生み育てられる環境づくりに取り組みます。

施策事業の体系

- (1) 子どもの権利の尊重
- (2) 安心して生み育てられる環境づくり
- (3) 地域における子育ての支援

1 施策の評価(施策の進捗状況)

○：概ね順調

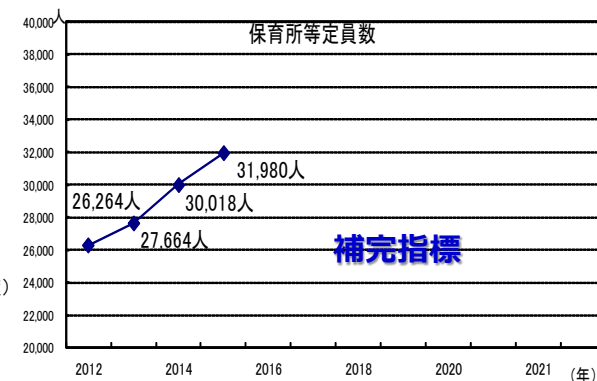
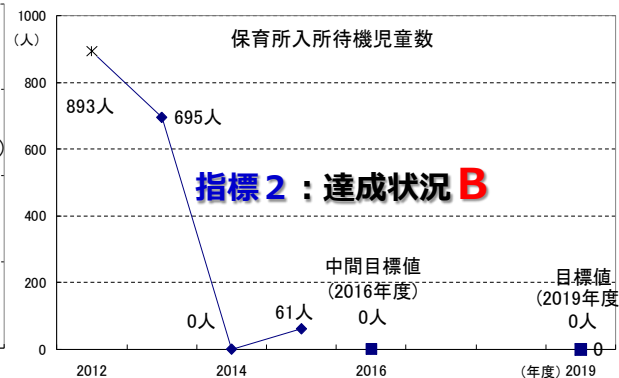
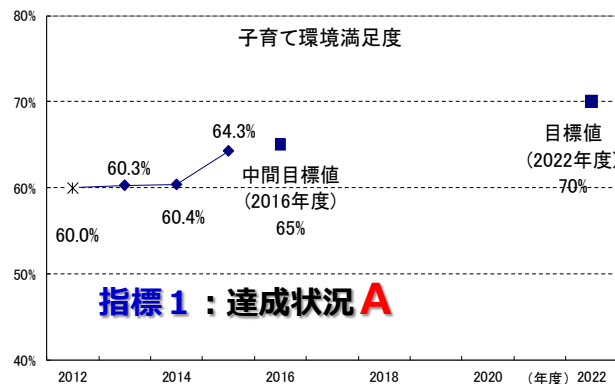
- ・重点事業として、1,561人分の保育所等定員増、保護者のニーズに対応した多様な保育サービス、留守家庭子ども会の全136施設における6年生の通年受入れなどを実施した。
- ・これらの取組みのもと、成果指標は中間目標値に向けて概ね順調に推移している。

2. 施策の関連指標の動向と分析

<子どもの健やかな育ち・安心して生み育てられる社会づくり>

満足度：(満足)27.5%，(不満足)30.2%，(どちらでもない)40.5%

重要度：(重要)83.9%，(非重要)1.8%，(どちらでもない)11.3%



【成果指標】

- ・指標1は、中間目標値に向けて順調に推移している。
 - ・指標2は、定員増を上回る入所申込数の増加により待機児童数はH27.4.1時点で61人となった。
- 政令市でみると、待機児童数の政令市平均104人（福岡市61人），待機児童数ゼロは7政令市（いずれもH27.4.1）

《補完指標》

- ・保育所等整備の推進により、定員数は大幅に増加している。

3. 事業の進捗状況(主な事業の成果)等

●子どもの権利の尊重

- ・児童虐待防止対策の推進（児童家庭支援センター、子育て見守り訪問派遣事業）

【進捗】子ども家庭支援センターを1箇所増設、子ども家庭支援センターでの心理判定などの技術的な助言・援助等
休日・夜間に虐待通告のあった家庭への「訪問員」による訪問及び目視による児童の安全確認等の実施

【課題】福岡市こども総合相談センターにおける児童虐待相談件数は高い水準で推移

【今後】児童虐待相談に対応するためセンターの体制を強化、休日・夜間の支援の継続実施 など

- ・社会的養護の充実

【進捗】里親広報DVDを活用した里親制度に関する出前講座、短期里親の活用などによる児童の一時保護等

【課題】里親登録数及び里親委託率は増加傾向だが、養育里親家庭は慢性的に不足、新規里親の更なる開拓が必要

【今後】短期専任の里親区分構築、一時保護委託が可能な乳幼児専門の養育里親の開拓 など

●安心して生み育てられる環境づくり

- ・保育所整備の推進

【進捗】保育所の増改築、新築、幼稚園活用、小規模保育事業等の多様な手法により1,561人分の定員増

【課題】H26.4に待機児童ゼロを実現したが、H27.4の待機児童は61人であり、保育需要は今後も増加する見込み

【今後】今後も増加が見込まれる保育需要に対応するため、引き続き保育所等の整備を推進 など

- ・保育士の人材確保

【進捗】潜在保育士等に対し、就職あっせん、再就職等を支援する研修会の実施等

【課題】「一億総活躍社会の実現」に向けて、保育需要は今後も増加する見込み

【今後】保育士・保育所支援センターにおいて就職斡旋等を行い、就労、就業継続のための支援を推進 など

- ・多様なサービスの充実

【進捗】一時預かり事業、延長保育に対する補助金交付、公立保育所での延長保育等の実施

【課題】病児保育や就労形態の多様化等に対応できる保育サービスの充実が求められている

【今後】保護者のニーズに柔軟に対応するため、需要動向を踏まえながら多様な保育サービスを充実 など

- ・多子世帯応援券事業【総合戦略の推進（交付金事業）関連】

【進捗】児童手当の受給者で18歳未満の子どもが3人以上いる世帯を対象とした「多子世帯応援券」を配付（H27n単年度事業）

●地域における子育ての支援

- ・留守家庭子ども会事業

【進捗】6年生の通年受入れやプレハブ施設の増改築による暫定的な狭隘化対策の実施

【課題】引き続き、児童数などの状況に応じた設備、運営環境の整備への取り組みが必要

【今後】児童数などの状況に応じた運営環境の向上を促進する

- ・障がい児の療育の確保

【進捗】発達障がいがある児童・生徒の預かりを放課後等支援事業所で実施 など

【課題】子どもの発達等に不安を持ち医学的診断を行う障がい児（特に発達障がい児）が近年著しく増加

【今後】子どもたちの放課後の居場所や障がい児を見守る体制の充実など、地域における子育て支援を推進 など

施策2-2 公民館などを活用した活動の場づくり

施策の方向性

- ・地域コミュニティ活動の場として活用されている公民館や市民センター、地域交流センターなどの必要な整備を進めます。
- ・また、公民館の「集まる」、「学ぶ」、「つなぐ」という機能を活用し、自治協議会、関係団体と連携した地域コミュニティ活動支援に取り組むとともに、小学校をはじめとするさまざまな地域の施設について、ボランティアや住民の活動拠点としての活用を促進します。

施策事業の体系

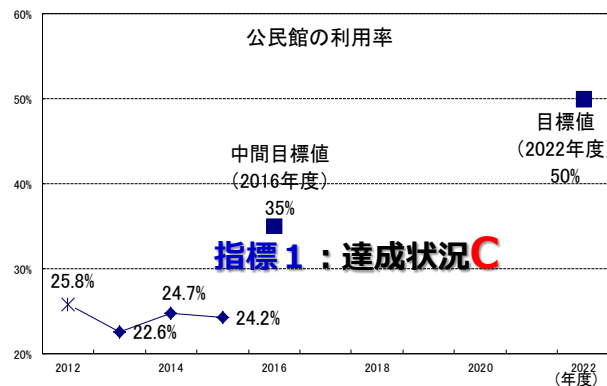
- (1) 公民館の機能強化
- (2) 活動の場づくり

1 施策の評価(施策の進捗状況)

○：概ね順調

- ・重点事業として、増改築などハード面と場づくりなどソフト面の両面での公民館機能強化や、なみきスクエアの竣工などの事業を進めた。
- ・このような中、成果指標としている公民館の利用率は、初期値以下でほぼ横ばいの状態であり、中間目標に向けたペースから遅れているが、公民館主催事業などによる公民館利用者数の実数は順調に伸びを示している。

2. 施策の関連指標の動向と分析



【成果指標】

前年度と比較して微減であり、おおむね現状の範囲内に止まっている。

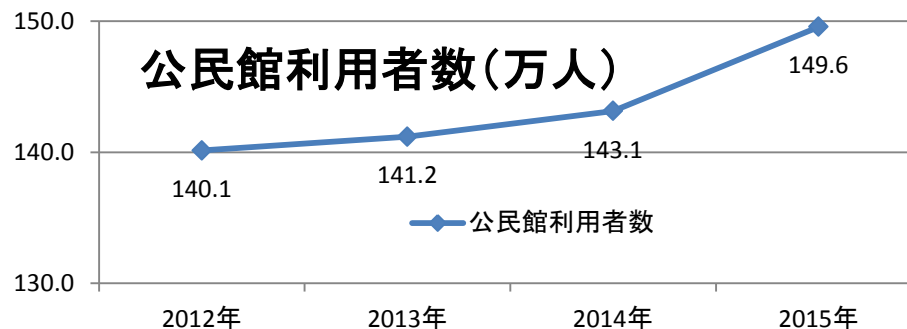
【補完指標】

公民館利用者数（公民館主催事業及び地域諸団体の延べ利用者数）は、2012年度の140.1万人から、2015年度に149.6万人に増加している。

＜公民館など地域コミュニティの活動の場づくり＞

満足度：（満足）31.2%，（不満足）14.0%，（どちらでもない）53.2%

重要度：（重要）53.4%，（非重要）8.1%，（どちらでもない）35.8%



3. 事業の進捗状況(主な事業の成果)等

●公民館の機能強化

・公民館改築

【進捗】地域コミュニティ機能の強化のため、H27nは香椎浜，赤坂，花畑，玄洋，香椎下原の公民館150坪化を実施

【今後】年3館ペースで公民館の150坪化を実施

・みんなの公民館づくり（地域・公民館の情報発信の強化，住民の活動の場づくり）

【進捗】ブログ開設（55館），「公民館ミニ図書館事業」（47館），「ふるさとフォトミュージアム事業」（25館）の実施
H26nより公民館からの提案方式による企画募集

【課題】利用者が固定化している状況にあり，公民館事業や活動の周知方法を検討し，新たな利用者の拡大が必要
公民館の充実には，さまざまな行事等を共催していく地域団体や学校，学生等と連携強化が不可欠

【今後】公民館の活動に対する地域住民の認知度向上，利用者の増加を図るため，公民館ブログ開設など情報発信を推進
地域活動の担い手の育成や，若者の地域活動への参加促進，地域情報の発信など，効果的なコミュニティ支援を行うため，「地域の担い手パワーアップ事業」，「学生がデザインする公民館事業」を実施
地域住民が気軽に立ち寄り，ふれあいや交流を促進するための新たなコミュニティ活動の場として「公民館ミニ図書館事業」の取組みを継続

●活動の場づくり

・香椎副都心公共施設整備（なみきスクエア；市民センター，音楽・演劇練習場外）

【進捗】H26.10に着工し，H28.3に竣工。（H28.6.4開館）

【課題】市民センターとの複合施設で，利用者が使いやすいような運用の検討，調整が必要

【今後】複合施設の特性を生かした施設となるよう，運用面での調整を図っていく

・地域交流センター検討（早良区）

【進捗】基本構想及び計画の検討を進め，整備地及び導入機能を決定

【課題】導入機能などの検討が必要

【今後】早期整備に向け，基本構想及び基本計画の策定，事業手法の検討などを推進

施策4-4 まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり

施策の方向性

- ・自然に囲まれたまとまりある市街地の中に、必要な都市機能を備えた拠点が円滑な交通で結ばれた福岡型のコンパクトな都市をめざし、都市のストックを最大限生かしながら、都市活力や市民生活の核となる各拠点の特性に応じて、都市機能や交通利便性の充実強化を図ります。
- ・また、日常生活圏においては、生活利便性の確保や、良好な居住環境、景観の形成に地域と共働して取り組むとともに、市街化調整区域や離島においては、自然と生活環境が調和したまちづくりに向けた支援や農山漁村地域の活力向上に取り組めます。

施策事業の体系

- (1) 計画的な市街地整備の推進
- (2) 公園再整備の推進
- (3) 農山漁村地域など市街化調整区域の活性化
- (4) 質の高い都市景観の形成
- (5) 住民によるまちづくり活動の推進
- (6) 東京圏バックアップの推進

1 施策の評価(施策の進捗状況)

○：概ね順調

- ・重点事業として、香椎・伊都の区画整理事業や九州大学移転跡地のまちづくりなど計画的な市街地整備、動物園再生事業など公園再整備の推進、志賀島活性化構想など市街化調整区域の活性化などが概ね順調に進んでいる。

2. 施策の関連指標の動向と分析

成果の指標 なし

＜生活の利便と豊かな自然がコンパクトにまとまったまちづくり＞
 満足度：(満足)40.5%，(不満足)13.3%，(どちらでもない)42.8%
 重要度：(重要)61.7%，(非重要)4.3%，(どちらでもない)29.4%

＜市街化調整区域や農産漁村地域の活力向上＞
 満足度：(満足)19.2%，(不満足)12.9%，(どちらでもない)64.6%
 重要度：(重要)50.4%，(非重要)4.7%，(どちらでもない)40.8%

3. 事業の進捗状況(主な事業の成果)等

●計画的な市街地整備の推進

・香椎駅周辺土地区画整理事業

【進捗】計画的に建物移転及び道路整備を行い、仮換地の使用収益を順次開始

【課題】全商店街の建物移転等に着手していることから、まちの賑わいが持続するよう商店街の早期再生を図ることが必要

【今後】商店街の早期再生に向け、効率的かつ効果的な建物移転・道路整備等を行い、平成30年度事業完了を目指す

・伊都土地区画整理事業

【進捗】区画整理事業完了

・九州大学移転跡地のまちづくり

【進捗】①六本松地区：裁判所、西・東街区の建設工事が進むとともに、国道202号交差点改良工事に着手

②箱崎地区：土地利用計画の策定に向け公共施設の配置案を作成

【課題】①早期のまちづくりに向け、司法機関の集積や福岡市科学館を含めた複合施設の立地、周辺交通対策が必要

②H30の統合移転事業完了にあわせて、速やかに周辺地域の望む新たな街の形成を図って行くための検討が必要

【今後】①H30nのまちの形成に向けて関係者や地元との協議の支援とともに、国道202号及び城南線における交通対策を実施

②跡地利用協議会等において地域の意見も踏まえまちづくりガイドラインを策定する

・七隈線沿線のまちづくり推進

【進捗】橋本駅前土地区画整理準備委員会及び地権者説明会開催の支援、事業計画作成に向けて関係機関協議を実施

【今後】H29n中の市街化区域編入に合わせた橋本駅前土地区画整理組合の設立を目指し事業計画作成、地権者合意形成

●公園再整備の推進

・動植物園再生事業

【進捗】動物園の施設リニューアルとして、H25nに「アジア熱帯の渓谷エリア」が完成

【今後】H28nから「エントランス複合施設」の工事に着手

・みどり活用推進事業

【進捗】みどり経営基本方針策定（H28.3）、西南杜の湖畔公園への民間活力導入による利便施設の設置、駐車場の有料化検討（東平尾公園等）、水上公園の有効活用検討・事業者決定・協定締結、高宮南緑地への民間活力導入の検討、活気ある公園づくり事業で地元ワークショップ実施

【今後】みどり経営基本方針に定めた施策を推進、水上公園はH28.7に供用開始予定、高宮南緑地はH28nに事業者公募開始予定、公園駐車場は今後も引き続き有料化を実施

●農山漁村地域など市街化調整区域の活性化

・志賀島活性化構想推進

【進捗】H19nに策定された「志賀島活性化構想」の地域による見直しを支援し、「志賀島活性化構想2015（H28.3）」を策定

【課題】農林水産業の振興や地域コミュニティの維持の観点から、規制緩和等により、地域外からの移住や民間活力の導入を図っていく必要がある

【今後】「志賀島活性化構想2015」の実現に向けて、地域による取り組み支援や規制緩和等により、定住化や地域産業の振興を推進

●東京圏バックアップの推進

・福岡市における東京圏バックアップ推進事業

【進捗】国提言活動や、東京圏に本社を有する民間企業への誘致PRの実施、経済界と協力した東京でのシンポジウム開催

【課題】「政府業務継続計画」（H26.3・内閣府）で福岡市が「代替拠点になり得る地域の一つ」に位置づけ

【今後】国等の動向を踏まえながら、産学官連携による取組みを実施

施策5-4 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成

施策の方向性

- ・福岡都市圏内の大学、会議場、ホテルなどと連携しながら、会議、展示、飲食、宿泊などのMICEを支える多様な要素が一体として機能するよう、MICEの拠点機能を高めます。
- ・また、ウォーターフロントに集積するコンベンション機能を強化するため、新たな展示場の整備や天神・博多駅との回遊性向上を進めます。
- ・さらに、助成金やおもてなし事業による開催支援や地元企業とのマッチング支援などにより、リピーターの確保や新たなビジネスの創出など、地元経済への波及効果を高めます。

施策事業の体系

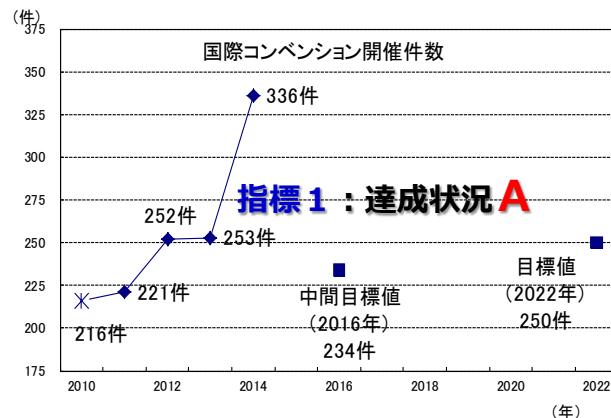
- (1) MICE機能の強化
- (2) MICE誘致の推進

1 施策の評価(施策の進捗状況)

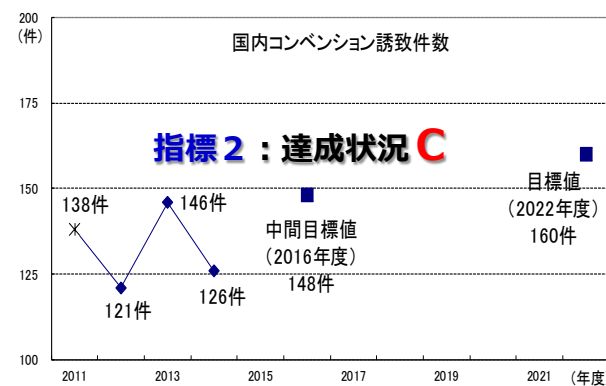
○：概ね順調

- ・重点事業として、コンベンション機能強化や都心部とウォーターフロントとの交通アクセス強化など、MICE機能の強化や、「福岡市MICEアンバサダー」やストリートパーティでのユニークベニューなど、MICE誘致の推進事業を実施した。
- ・このような取り組みのもと、国際コンベンション開催件数は急増している。

2. 施策の関連指標の動向と分析



＜国際会議や展示会・見本市などの誘致・コンベンション機能の強化＞
 満足度：(満足)23.9%，(不満足)9.3%，(どちらでもない)63.3%
 重要度：(重要)41.1%，(非重要)11.6%，(どちらでもない)43.4%



【成果指標】

- ・本市の年間国際会議開催件数は336件（H26）で、目標値を上回っている。（件数は6年連続で国内第2位）
- ・国内会議の誘致件数は126件（H26n）となり、前年度より減少した。（原因整理中）

3. 事業の進捗状況(主な事業の成果)等

●MICE機能の強化

・コンベンション機能強化の検討

【進捗】ウォーターフロント地区における計画提案公募を実施し、事業者から19件の提案を受領
第2期展示場等の具体的な施設計画やホテル・賑わい施設の誘致に係る検討を実施

【課題】ウォーターフロント地区内での「オール・イン・ワン(※1)」の早期実現にあたり、ホテル・賑わい施設等の民間施設の誘致に向けて、交通アクセス強化等も含めた魅力的で実現性の高い計画づくりが必要

【今後】H28n以降の事業者公募に向けて、第2期展示場等のMICE施設について事業手法を検討
ホテルや賑わい施設等の民間施設の誘致に向けた条件の整理や公募方法を検討

・都心部とウォーターフロントとの交通アクセス強化の検討

【進捗】「都心循環BRT(※2)」形成に向けた連結バス試走、「BRT専用走行空間」、「バス路線の再編・効率化」の検討

【課題】天神ビッグバンやウォーターフロント再整備等による新たな交通需要への対応が必要

【今後】都心循環BRTの形成、バス路線の再編・効率化、都心周辺部駐車場(フリンジパーキング)の確保等を推進

※1：展示場、会議室、宿泊、宴会場などのMICE関連施設や飲食店、休憩所等が徒歩圏内に一体的・機能的に配置されること。

※2：バス高速輸送システム(Bus Rapid Transit)。福岡市における都心循環BRTとは「連結バスの導入、シンボリックなバス停整備、鉄道や路線バスとの乗継強化などにより、従来のバスよりも、速く、時間どおりに、たくさんの人を運ぶ、分かりやすく使いやすいシステム。」としている。

●MICE誘致の推進

・MICE誘致推進事業

【進捗】市とMICEの専門組織「Meeting Place Fukuoka」、コンベンションセンターの施設管理者の連携強化策を検討
学術や産業分野で影響力を持つ人物を「福岡市MICEアンバサダー」に委嘱し、キーパーソンとのネットワーク強化
ならびに新規MICEの誘致促進

MICE参加者の利便性向上を図るため、マリンメッセ福岡の全館にWi-Fiを導入

イベントが集中する時期の宿泊施設不足に対応するため、民泊の取り組みを試験的に実施

【課題】国際会議協会のデータベース活用やMICE開催のキーパーソンとのネットワーク強化による新規案件掘り起こしが必要

【今後】福岡市独自のユニークベニューの開発、MICEを通じたビジネスマッチングを行うこと等により、福岡でのMICE
開催の魅力を高め、国内外へ発信することにより再来訪や新たな誘致を獲得

海外への展示会の出展や国内外におけるMICEセミナーの開催による新規案件の発掘、福岡市MICEアンバサダー
との共同営業や関係団体と連携した商談会の開催、キーパーソンの招聘等により、戦略的な誘致活動の展開

「Meeting Place Fukuoka」と(公財)福岡コンベンションセンターの連携を強化

H28.6のライオンズクラブ国際大会に向け、「Meeting Place Fukuoka」を中心に受入環境の整備を実施

・国家戦略特区MICE推進事業

【進捗】国家戦略特区の規制緩和を活用し、公道を活用したイベント(ストリートパーティ)を実施、その中でMICE参加者
の懇親会を開催するなど、福岡でのMICE開催の魅力向上のためにユニークベニューの開発

・MICEによる福岡版クールジャパンの推進【総合戦略の推進(交付金事業)関連】

【進捗】携帯電話の位置情報のビッグデータを活用して、MICE参加者の行動を分析し、市内各地への回遊などの課題対応に
向けた実証的な分析を実施

MICE参加者等の利便性向上や市内回遊性向上のため、スマートフォンアプリを制作

施策7ー1 新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり

施策の方向性

- ・創業や社会実験、ソーシャルビジネス、新たなプロジェクトなど、さまざまな分野でスタートアップ（新しい行動や事業を起こすこと）にチャレンジする人材や企業を国内外から福岡に呼び込み、インキュベート事業、創業者の成長段階に応じた支援など、それぞれのニーズに対応したきめ細かなサポートにより、福岡で活躍できる環境を整え、創業しやすく、新たなチャレンジを応援する都市の実現を図ります。

施策事業の体系

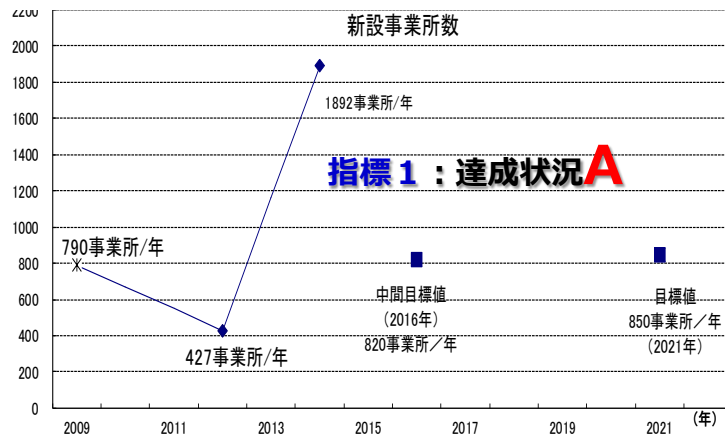
- (1) チャレンジ人材の集積、活躍支援
- (2) 創業しやすい都市づくり

1 施策の評価(施策の進捗状況)

◎：順調

- ・重点事業として、サロン、ワークショップやスクールの運営などスタートアップ・サポーターズや、スタートアップカフェの運営やインキュベート事業など、創業しやすい都市づくりを実施した。
- ・これらの取組みのもと、成果指標としている新設事業所数は急増し、中間目標値を超えている。

2. 施策の関連指標の動向と分析

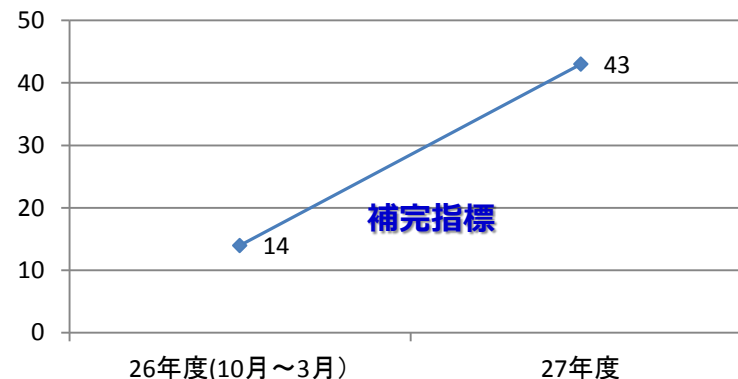


<創業しやすいまちづくり>

満足度：(満足)15.5%，(不満足)14.6%，(どちらでもない)66.5%

重要度：(重要)50.0%，(非重要)5.4%，(どちらでもない)41.0%

スタートアップカフェ利用者の起業件数



【成果指標】

- ・現状値の調査日は平成26年7月1日であり、平成24年の調査以降に行われたスタートアップ都市づくり推進のための取組みの成果が数値に反映したものと考えられる。

※今調査から新設事業所の定義変更に伴い、全国的にも数値は大幅に増加している。

【補完指標】

- ・スタートアップカフェにおける支援の充実により、順調に増加しているものと考えられる。

3. 事業の進捗状況(主な事業の成果)等

●チャレンジ人材の集積、活躍支援

・スタートアップ・サポーターズ、情報関連産業の振興

【進捗】サロン、ワークショップやスクールの運営等を実施し、起業家育成に寄与

情報関連産業振興のため、業界のニーズの高い分野の講座を実施し、多くの人材（技術者等）を育成

【課題】景気の上向きにより、企業や官公庁のシステムやソフトウェア開発等の需要が増加してきているが、必要となる人材（エンジニア）が不足

【今後】スタートアップ・サポーターズについては、成長性の高いスタートアップを発掘し、国内外のスタートアップ支援機関とのマッチング等による起業支援を行う

I o T関連企業のネットワーク化を支援し、業種・企業規模を超えたマッチングや資金調達支援等を推進

●創業しやすい都市づくり

・インキュベート事業、福岡市創業者応援団事業、スタートアップカフェ運営

【進捗】インキュベート事業（原則入居3年間）で、これまでに約190社にオフィスを提供し、創業直後の体力が弱いスタートアップ企業（創業5年未満）を支援

創業者応援団事業では、創業者応援団フォーラム、セミナー等を通じてスタートアップ企業同士の交流促進、販路拡大等を支援

創業の裾野の広げるために設置したスタートアップカフェで、創業に関する相談、イベント等、人材マッチングなどの支援を実施。利用者から57社以上が起業するなど、創業の裾野は着実に拡大

※併設された雇用労働相談センター（国が設置・運営）と連携

【課題】国家戦略特区の規制緩和等を活用して、世界一チャレンジしやすい都市を目指した取り組みが必要

【今後】国家戦略特区における規制改革（スタートアップビザ、雇用労働相談センター、スタートアップ法人減税等）に加え、スタートアップカフェ等を活用した施策を充実させ、福岡市スタートアップ・パッケージとして戦略的・総合的に推進する

・民間創業拠点支援事業【総合戦略の推進（交付金事業）関連】

【進捗】民間のインキュベーション施設を運営する事業者へインキュベーションマネージャーの設置に関する補助を行い、民間インキュベーション施設の拡充を図った

あわせて、各拠点の支援機能や連携機能強化を図るとともに、各拠点と創業者の情報発信を充実させたこの「民間創業拠点支援事業」の実施により、創業者10人と新たな雇用5人が生まれた。

施策8-3 国際的なビジネス交流の促進

施策の方向性

- ・コンテンツ産業や食関連産業など、競争力を持ち得る産業の海外展開への取組みをはじめ、地場中小企業の海外への販路拡大や外国企業とのビジネス連携を支援します。
- ・また、アジアとのネットワークを生かし、国の制度も活用しながら、ビジネス交流の促進を図ります。

施策事業の体系

- (1) 国際ビジネスの振興
- (2) クリエイティブ産業等の海外展開の支援

1 施策の評価(施策の進捗状況)

○：概ね順調

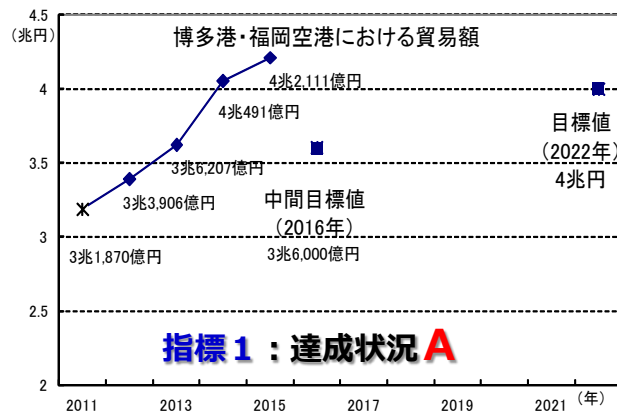
- ・重点事業として、福岡アジアビジネス支援委員会・福岡フードビジネス協議会による商談会や展示会、海外メディアを通じた「福岡の食」の海外への発信、クリエイティブ産業等の海外展開プロモーションなどを実施した。
- ・これらの取組みのもと、成果指標としている貿易額は急増し、中間目標値を超えている。

2. 施策の関連指標の動向と分析

<国際的なビジネス交流>

満足度：(満足)19.7%，(不満足)10.6%，(どちらでもない)66.0%

重要度：(重要)47.9%，(非重要)7.7%，(どちらでもない)40.2%



【成果指標】

- ・H27の日本の貿易額は前年比96.9%の154兆円と減少した。一方、博多港・福岡空港の貿易額は4.0%増の4兆2,111億円となり、6年連続で増加し過去最高額となった。輸出入差引額は1.7%減の1兆1,087億円となるも、2年連続で1兆円を超過した。

3. 事業の進捗状況(主な事業の成果)等

●国際ビジネスの振興

- ・国際ビジネス促進・支援事業（アジアビジネス促進・支援事業，海外駐在員ビジネス連携推進，アジア経済交流センター）
 - 【進捗】成長著しいアジアへの販路拡大や外国企業との連携強化（福岡アジアビジネス支援委員会）や，福岡・九州の地場食品製造企業がまとまって輸出拡大を進め，福岡・九州の食の海外でのブランド化を図る福岡フードビジネス協議会の活動として，商談会や展示会などを実施
 - 【課題】中国をはじめアジアのビジネス環境が大きく変化する中で，国際ビジネスを展開する企業の行政支援に対するニーズが多様化しており，支援に必要な資源やノウハウの確保が困難
 - 【今後】国際ビジネス支援を行う関係団体と連携を深め，情報・サービスを相互に活用しながら，企業ニーズに応じて，事業の拡充や見直しを実施
- ・産業の国際競争力の強化（総合特区制度の推進）
 - 【進捗】グリーンアジア総合特区制度を活用した福岡市独自の取組みとして，ROROターミナル整備などの事業を推進
市税優遇施策の充実，パンフレットの作成などを実施
同制度の税制支援等を活用した，環境を軸とした産業拠点の形成を推進
 - 【課題】産業拠点形成の加速に向け，「グリーンアジア国際戦略総合特区」の支援制度(税制優遇等)の活用促進が課題
 - 【今後】総合特区制度の活用を促進するため，引き続きセミナーの開催などにより制度を周知
- ・“福岡の食” 国際ブランド化事業【総合戦略の推進（交付金事業）関連】
 - 【進捗】海外有名シェフに対する福岡市農水産物・加工食品のPRとあわせて地元生産者との直接商談会を実施
海外メディアを通じ“福岡の食”を海外へ発信

(2) クリエイティブ産業等の海外展開の支援

- ・クリエイティブ産業等の海外展開プロモーション
（クリエイティブ・エンターテインメント都市づくり推進事業（海外展開））
 - 【進捗】WEBサイトによる情報発信，企業関係者・クリエイター向けの国際交流会を開催
 - 【課題】クリエイティブ関連産業をはじめとする市内産業の海外展開に向けて，福岡市及び福岡市の産業に関する認知度の向上を図ることが必要
 - 【今後】外部の事業者や専門家のノウハウや情報，ネットワークを活用し，プロモーション手法や開催するイベントの内容をより効果的なものに改善